

二〇一六年一月八日

恋の札はじき飛ばして歌留多とる
能舞の足の運びに淑気あり
焚き上げの灰高舞ひて初神楽

とろうち

宏 虎

なつき

二〇一六年一月七日

去年今年跨ぎ八十路の峠越ゆ
寒鯉の身じろぐと見し塔の影
新春の号外に街さんざめく
庭猫の吾に媚びをる御慶かな
花道に舞ふ衣擦れの淑気かな

宏 虎

よし女

せいじ

豆 狸

うつき

二〇一六年一月六日

台の上に鱗飛び散る糶始め
初空へ直立したる飛行雲
連獅子の足ふみ揃ふ初芝居
七草の揃はぬもよし祝ひ粥
御手洗の青竹新た年来る
数珠なして恵方詣の車椅子

よし女

豆 狸

うつき

明日香

ぼんこ

とろうち

二〇一六年一月五日

飛び立てば数の多さや稲雀
門松の竹の切つ先潔し
水平線達磨となりて初日出づ

ともえ

あさこ

治 男

二〇一六年一月四日

牡蠣割女無心に牡蠣の山崩す
電車揺れ破魔矢の鈴の響きけり
去年今年ほ句に癒され励まされ

ともえ

さつき

菜 々

二〇一六年一月三日

初鏡介護の日々に負けまじく
福寿草苔のビロード貫きて
万歳の声のウエーブ初日の出
金釘の癖字でわかる年賀状
初春や小さき漁船も大漁旗
初千鳥瀬戸の潮路をまぶしめよ

うつき

さつき

治 男

宏 虎

ともえ

よし女

二〇一六年一月二日

初富士の常と変わらぬ御空かな
打ち返す波音もまた年新た
山気裂き神鼓訝す淑気かな

とろうち

三 刀

宏 虎

毎日句会みのる選・二〇一六年一月一〇日